



卓 話



「教育論」

戸塚ヨットスクール校長

戸塚 宏氏

今の教師達の中には未だに革命を夢見ている人がいます。昔のように力による革命は出来ないので、それならば国民を駄目にすればいい、そうすれば国力が落ち、いつか革命を起こす事が出来るという思想に基づき、教育を行っているのです。そんな訳で私の所に来るような子供達に弊害が表れています。又、一方で家庭崩壊が起きています。日本は悪い国だったのだ、先祖は悪かったのだと子供に吹き込み、その教えを順番にたどっていくと結果的に父母が悪い人だという事に成りますから親子関係がうまくいくはずがありません。又おかしな事に子供達は両親が自分の面倒を見るという事を親の義務であると教わっています。そして子供としては親のいう事を聞く義務はないと言います。何故なら親に面倒をみてもらう事は当然の権利なのだという理論を持っているからです。



このような非科学的な事で現代の教育が成り立っています。私は工学部、機械科の理系出身ですから、文科系の教育という分野に入って、まず分かった事がその非科学性でした。科学の定義は法則に沿って行けば必ず成果が出ます。今のように教育の成果が出てないとしたら、その教育論が非科学的であるという事です。それなのに、例えば「体罰は悪い」、「叱るより褒めろ」、「権利は何よりも大事である」、「人の命を何よりも大切にしろ」、等の事がよく言われていますが、本当に自分がそう思っているのでしょうか。例えば山手線が止まり、人身事故の放送があったとします。これはもう人が死亡したに決まっています。その時に本当に命が何よりも大切であると思っただけなら、冥福するか悲しんで泣くはずですが、しかし、構内の皆さんは自分の予定が狂うと怒っています。つまり人の命よりも自分の予定の方が大切だからではないのでしょうか。それが自分の本心なのに、子供に向かって「人の命は何よりも大切だ」と教える事は嘘を教える事になります。

同様に子供達は「権利を大切にしろ」と教えられています。うちに時々児童相談所の方が20人の体制でやってきます。いったい何をしに来たのかと尋ねると、お家で子供の権利の侵害が行われているという報告があったので、子供

の権利を守る為に子供を保護すると。要するにうちから拉致をしようという訳です。

彼らにそんな権限はないのですよ。あるように彼らは思っているだけなのです。権限を証明出来る法律をみせなさいと言うと戸惑います。ついでにもう一つ、権利の定義をして下さいと言っても出来ません。権利の定義が出来ない人がどうして権利の侵害と定義が出来たのか。権利を知らないのだったら、権利が侵害されたと言うことは成り立たないのではないのでしょうか。

この様に日本の半分以上の人間が体罰は悪いという意見を持っていますが、差し向かいで話すと賛成に意見が転じます。しかし人の中に入ると反対だと言う。体制に逆えない日本の男達の情けなさですね。もう一つは体罰が悪かどうかという事が、正しいのか全く分かっていない。もし体罰は悪いという意見を持っているなら、その意見を帰納法で作ったのか演繹法で作ったのか証明してみてください。帰納法で作れる人は現場の人間に限られますから、まず殆どの人が演繹法で作っているのです。さらに体罰の定義より、もっと難しくなりますが善悪の定義を話してもらいたいが、何を基準に善悪が決まるのかそれさえご存じない。自分の知っている善悪が正しいのかどうか分からない人達が、体罰反対と叫んでいるのです。科学的に考えてみると帰納法でやっても演繹法でやっても体罰は善です。例えば何故悪かと聞くと、体罰は人が死ぬ事もあるではないかと言う。それなら自動車事故が起こって人が死んだ時、自動車が悪いと言いますか。運転が悪いのでしょうか。漏電で火事が起こった時、電気が悪いからと言いますでしょうか。自動車、電気、体罰もこれは善なのです。目的が善なのです。自動車を造った人は、事故を起こそうと思った訳ではないし、電気を作った人は、火事を起こそうと思っただけです。体罰も怪我や死んだりする事を目的としていません。事故なのです。事故の起こらない所がなどありますか。それなのに「人の命は何よりも大切」という事を自分が思っている嘘。又体罰は悪だと思っただけの嘘。それによって子供の世界から体罰が消えて、今のような状態です。体罰が悪なら、体罰なしでちゃんとやってみればいいのです。

現在いる生徒の中で最高年齢が40歳です。40年間全く更正出来ず、親が連れて来ました。カウンセラーが何とかなると言っていたらしいのですが、どうにもなりません。その人が来てこちらが指示をすると「なんで言うことを聞かねばならないのか、私にも尊厳がある。」と言ってきます。「それは立派な事だ、見せてみなさい、見ないと分からないでしょう。うちはヨット、ウィンドサーフィン

を教えているが、それが私より上手いのなら尊厳を認めましょう。もしくは人間性が非常に高く、素晴らしい人間なら尊厳を認めましょう。茶碗をつくらせたら世界一というなら尊厳を認めましょう。貴方は何が出来るのですか。」という何も出来ないと言います。「では尊厳なしでいいのですね。ひっぱたかれても文句言は言わないように。」と言うと、それはいけないと返ってくる。「何故いけないのか。体罰は悪だから」と何の理屈にもなりません。

人を進歩させる方法は2つあります。一つはトレーニング、一つはコーチングです。トレーニングの語源はトレイン、汽車です。目的地に持って行く事ですから出発点、出発時間、途中経路、終着点、終着時間と全て決まっています。この中には本人の都合は関係ありません。教育する側の方針に基づいて、カチリとやるのがトレーニングです。教育はトレーニングであるという事を忘れてはいけません。そのトレーニング中に個性や自由、ましてや権利が大事であるというのはナンセンスです。だいたい権利という言葉を知っていても、意味を知らない人が多い。江戸の末期に欧米使節団がむこうの文化を持ち帰り、それを和訳したのが権利のもとです。当初「right」がどうしても訳せませんでした。そうした理念が日本にはなく、又なくてもちゃんとやれてきたからです。欧米の方は権利がないとやっていけません。日本が欧米のやり方でやる、こんな馬鹿な事があるのでしょうか。これは考える力のない官僚の責任です。皆で頭を寄せ合って「right」をどう訳すかと論じた結果、「権利」がいいという事でこの言葉が流行り始めました。この時に反対したのが福沢諭吉です。「right」を「権利」と訳してはならない。これは誤訳であるから将来禍根を残す事になると言っていました。

現在「権利」という言葉を使って子供が進歩しなくなりました。或いは悪い事をするようになりました。学校で言われたから、先生がそう言ったから正しいとは限りません。先に述べましたが、自分で善悪をどうやって決めたかが一切分からない為に、善と悪が引っくり返っているような状態で教育するので、成果があがる訳がありません。昔日本が使っていた大和魂というもの、その大和魂を道にしたものが武士道です。これは我々が読んでみると明らかに科学的でかつ整然と出来上がっています。

戦後マッカーサーにより精神論のクーデターが起こりました。この事を皆さんは余りよく考えていないと思います。日本流の精神論は間違い。欧米流の精神論が正しいというのが彼らの言い分です。情けない事に日本の学者も官僚もこれに従いました。もし自分が正しい精神論を持っているならば、マッカーサーが説いた精神論が日本では通じないという事が分かるはずですが、しかし、役人も学者も偏差値秀才ですから思考能力がない上、人間性が低く、行動力がない。知育というのは思考能力をつける事。徳育というのは人間性を高める事。体育というのは行動力をつける事。この目的に沿って教育しないと上手くいくはずがありません。個性とか自由とかそんなものを教育に取り入れていいのでしょうか。権利もまたしかりです。これは権利が誤訳であった事に起因します。例えば、売春をする女子中学生がテレビ出演して皆に諭されていましたが、女の子はきょとんとして「一体何が悪いのか。誰かに迷惑をかけた

のか。私の権利、自由ではないか。」と言っていました。この事を出演している評論家、アナウンサー、タレントは善人ぶって論ずる。そして段々と議論がおかしな方向にねじれてくる。その時は「それは権利でも自由でもない。」と誰も言いません。

結局、日本人が権利という意味は知らずに権利を使っているのです。子供が分るはずがありません。これが今の日本の情けない姿ではないでしょうか。何で権利という言葉を使う前に、英語でその関係の本を読んでみないのでしょうか。或いは何故福沢諭吉がこの訳はいけないと言ったのか考えてみないのでしょうか。「多分こういったものである」とものを言ってしまうています。マスコミの考え方は、子供を甘やかす方が良い人間で、子供をしごく方が悪い人間だと、信じがたい考え方を持っているので民主主義の定義が出来ないのです。今迄でうちに色々なマスコミが教育について取材にやって来ました。「貴方に取材をする権利があると思っているのか。だったら私にも取材を拒否する権利がある。」と私は言います。「何を取材に来た。」「教育です。」では「教育の定義とは、目的とは何か。」と言っても定義も出来ません。目的も解らない人間が教育について取材する能力があるのでしょうか。教育の定義はこうであってこうなのだからあなたのやり方は正しい、間違っていると欲しい。言葉一つ一つ、定義、目的、使い方、この3つをしっかりとしない事には使えないし、言っている事が正しいかどうかわかりません。しかしこれが明治以降の日本の教育のあり方です。他国の文化を取り入れた為、この様な状態になってしまいました。

例えば「和を持って尊しとなす」と言った聖徳太子、十七条憲法はずばらしいと習いました。ではその言葉を使いましょう。その為には和とは何かを定義しなくてはなりません。そして目的、使い方、この3つを身につけていないとこの言葉から何が出来るのか分かりません。しかし偏差値秀才にとっては使い方などまるで関係がありません。だから現場でも使えないのです。それが役人、司法、立法、行政、マスコミといった日本のリーダーの考え方です。つまり彼らの言う事には裏付けがありません。自分でやった訳でもなく、自分で出来る訳でもない。やはりここは儒教というような知行合一、知っている事、イコール出来る事というのを考え直さないといけません。

精神が価値あるものという考え方はヨーロッパ流です。精神そのものには何の価値もないというのが日本流です。行動した時に初めて価値が生じます。精神は行動のプログラムですから、精神は1万円札と一緒にです。使った時に初めて価値が生じます。それを理解しないで教育の目的を達成していないのですから、日本から偏差値秀才を一掃してはならないのです。近頃は、会社で大学卒の学生を入れて何も出来ず、文句を言うと辞めてしまうと聞きます。「女子と小人は養い難しと為す。之を近づければ則ち不遜、之を遠ざければ則ち怨む。」という孔子の言葉がありますが、今日本の男が皆、小人になってしまい出来る事が限られてしまっています。うちに来る子も「このやり方は僕に合わない。」と言いますが、「どのやり方が合うのか」と聞いても答えられません。又「私は褒められた方が伸びるタイプです。」それではと褒めても変わらない。褒

められれば誰でも嬉しいに決まっています。私は叱る事より褒める事の方がとんでもない間違いであると思っています。うちに来る子達はそうした考え方の犠牲者です。叱れば必ず伸びるし、褒めたら進歩が止まる。

色々な事件を起こす人々がいますが、社会性、人間性もない3才の子供がやったというなら納得出来ます。今の教育の失敗はヨーロッパ流の精神論を押し付けてきた点にあります。この中には進歩という言葉が欠けています。「神様が人間を作ったのだから完成品をこの世に送り出している。それを進歩させるという事は神の意志に反する。進歩などとんでもない。」という精神論です。これは宗教であって科学でも何でもありません。宗教の都合ばかり取り入れています。”I was born in Japan”「私は日本で生まれました。」という訳は間違いです。be動詞が付いているのでこれは受け身です。私は日本に生まれましたは能動態ですから、この本当の訳は「私は神によって日本につかわされました」なのです。この様な間違いを受け入れて教えてきた愚かしさが、日本を駄目にしたのです。

今我々が助かる道は、まず第1に本物の秀才、特に文系の秀才を育てる事です。歴史的に見て、日本は理科系の人間

が日本を大きくし、文科系が潰すという繰り返しが行われてきました。これからは本物の文科系の秀才を作る事が、教育で第1にやるべき事であると思います。これは小学校の段階で出来ます。それなのに、小学校が甘やかし放題の教育をするので、日本から人材がいなくなるのです。小学校をきっちりして、男を作るという事です。国を良くするのも、作るのも、守るのも男です。今その男の教育が全くできていません。子供が男になるのは小学校の間です。昔は13歳で元服しました。完全な男となった後は男を磨く社会性という段階になりますが、現在は男を作る事が出来ません。何しろ女の先生が小学校で教えていますし、又小学校に文句を言うのも皆母親です。女の理論で男を育てる事は出来ません。その結果、私の所へ来る事になるのです。ではその責任を誰がとるのでしょうか。文部省も責任をとらない、マスコミも分かっていません。日本を建て直すのは、結局我々個々の男の責任なのです。是非教育から逃げずに自分で何とかしようと思われ、出来る事ならロータリーの最大事業として教育を取り上げてもらえれば、日本は救われると思います。是非自分達の利益になると思ってやって下さい。ご協力宜しく御願います。